

石油発見で期待される躍進

大西洋沿岸地方



カナダの大西洋沿岸に位置するニュー・ブランズウィック、ノバ・スコシア、プリンス・エドワード・アイランド、ニューファンドランドの四州は、植民の歴史が古く、景観も素晴らしいが、日本では一般になじみが薄い。ようやくプリンス・エドワード・アイランドが、小説「赤毛のアン」の人気のおかげで、特に女性の間でよく知られているといてであろう。

日本であまり関心がないのは、距離のためだけではない。ラブラドルの鉄鉱石など、一部の物品を除いて、これまで日本とのかわりかそれほど無かったのも一因だ。面積にしてカナダ全体のわずかに六パーセント、人口では一〇パーセントという大西洋沿岸地方の主な産業は、漁業、林業、鉱業、それに農業だが、ブリテッシュ・コロンビアなどと比べて規模が小さく、しかも貿易の大半は米国やヨーロッパを相手としていた。

しかしながら、近年は、鉄鉱石に加えて、紙パルプや本マグロ、ブルーベリーやピートモス（泥炭コケ）、それにニシンやカニ、ロブスターなどの魚介類が日本にも大量に入るようになり、大西洋沿岸地方はぐっと近い存在になった。

大西洋沿岸地方は、いま、ひとつの曲り角にきている。これまでカナダで最も貧しく、最も失業率が高く、過疎化の著しかったこの一帯の沿岸で、石油と天然ガスが発見されたからだ。開発はまだ緒に付いたばかりだが、人々はようやく自分たちにも運が向いてきた、と大きな期待を寄せている。

ニューファンドランド州

海底油田に

大きな期待

ニューファンドランド州は、同名の島とベルイル海峡をへだてた大陸側のラブラドルからなる、四十万四千五百平方キロの地域だ。アメリカのアラスカやテキサスより大きく、日本全体の二倍もある。しかし、「ザ・ロック」という異名があるように、大半が岩だらけのため、人間の居住には不向きで、五十八万人ほどしか住んでいない。

ただ、あとで述べるように、鉱物、水力、林産などの資源はきわめて豊富で、近年発見された海底油田とともに、同州の大きな魅力となっている。

ニューファンドランド州は、いろいろな意味で、カナダの他の州とは一風変わっている。そのひとつは、世界における英国最初の植民地であったこと。レイフ・エリクソンなどの「北方人」（バイキング）が、西暦一〇〇〇年頃、島の北端に立ち寄った形跡もあるが、イングランド南西部の貿易港プリストルを出航したジョン・カボットが、一四九七年に現在のセント・ジョーンズに達したのが、史実に残っているヨーロッパ人のニューファンドランド「発見」である。

この「ニュー・ファウンド・ランド」（新しく発見された土地）は、その後、長

首相 ブライアン・ペックフォード（進歩保守党）
首都 セント・ジョーンズ
面積 四〇四、五一七平方キロ
人口 五七八、九〇〇人（八四年）
州民所得 五十億ドル（八四年推定）

い間、プリストルの商人と彼らに雇われた漁夫以外、ヨーロッパで知る者はなかった。ニューファンドランド沖は世界的な漁場で、商人たちは漁夫が持ち帰るタラなどにより巨大な富を築いたが、莫大な課税を恐れて、すべてを秘密にしていたのである。しかし、一五八三年、サー・ハンフリー・ギルバートが、女王エリザベス一世の名においてニューファンドランドの英国領有を宣言、英国最初の植民地となった。

第二は、ニューファンドランドが、一八六七年のカナダ連邦結成に加わらなかったことである。ニューファンドランドは、一八五五年、英連邦自治領の地位を獲得する。独自の通貨やパスポート、切手を発行し、独自の国歌を歌い、独自の関税を課す、ほぼ独立国なみの存在であった。一八六五年、英領北アメリカ植民地の連邦結成問題が起こったとき、ニューファンドランドは積極的に交渉に参加したが、六九年の選挙で連邦加盟は否決されてしまった。

ようやく加盟が実現するのは、一九四九年のことである。住民投票で、責任政府、英国統治、カナダ連邦加盟の三つの選択のうち、連邦加盟が僅差で勝利を取